
◇ 村 松 積 ◇

○議長（宮嶋 清伸） 7番、村松積君、質問を許します。登壇願います。

村松積君。

○7番（村松 積） 7番、村松積でございます。

先の東日本大震災に際し、痛ましい犠牲となられた皆様方に対し、謹んで哀悼の意を表すとともに、被災された皆様方には重ねて心よりお見舞いを申し上げ、前向きに一刻も早い復旧復興を願っておるところでございます。

先に通告してありますように、私は今回、甚大な被害を及ぼした東日本大震災を受け、改めて私どもも防災に対する備えが重要だと考えておりますが、村において震災への対応と危機管理体制についてお伺いをいたしたいと思うわけでございます。

東日本大震災により、私たちの地域も産業、経済、雇用、村の財政運営に大きな影響を受けております。東日本大震災は、今日で92日目を迎えておるわけございまして、それで被災者数が6月9日現在でございますけれども、15,401人と、行方不明者が8,146人。それで各地の場所に避難をされておる方たちが9万8千人余というふうになっておるということでもあります。

あの突然無差別に破壊された被害に遭った東北地方の市町村がテレビ等で報道され、平和な午後に一瞬で多くの命が奪われたことにいいようのない恐怖を感じたのは国民全員ではないかと思っておるところでございます。

当地域においても、東海沖地震の強化指定地域に指定されており、いつ来てもおかしくないといわれております。東海沖地震は、根拠をもとに今後30年以内に87%の確率で地震が発生すると言われておるわけでございますが、その規模は東日本大震災でマグニチュード9.0といわれておりますが、東海沖地震でも同程度のマグニチュード8.7と想定されておるというように報道をされております。

いずれにいたしましても、予知を想定とした東海沖地震だけでなく、突発的な災害発生時において即座に対応しなければならず、現在は予知を前提とした訓練や対応を行っておる状況であります。机上の空論になる可能性もあると思いますので、大地震または大震災発生時には村においては十分な対応ができておるかと思っておりますけれども、村の対応支援と今後の体制、また非常食の備蓄状況と今後の対応。

なお、避難所等にあてられております公共施設等の耐震化状況についてはもう完了しておるかと思えますけれども、耐震化状況と今後の対応等についてお願いをしたいということでございます。

防災の想定はあくまでも自然の想定であります。村においては防災関係の対応はもちろんです。そのほか他町村ではまねのできないような政策を数々行ってきて、当下條村が全国的に大変注目されて、素晴らしい評価を得ておるということは、これもひとえに伊藤村長の長年の行政手腕の積み重ねの結果と、私たちも村民も非常に大きな評価をしておるといふところであります。

そうした中で、伊藤村長の村において震災や災害等の対応と危機管理についてお伺いしたいということでございます。

○議長（宮嶋 清伸） 伊藤村長、答弁願います。

○村長（伊藤 喜平） 村松議員の質問にお答えいたします。

震災のことについていろいろの角度からご指摘ございました。

今、東海沖地震の強化地域ということでございますけれども、私の今回事象、それから今までの事象を見ておって、地震の予知というのはほとんど当たらないということでございます。

私が議員に就いた時から「東海沖地震東海沖地震」ということで、もうくるぞもうくるぞもうくるぞと言ってきたのはほとんど日本海でございました。あの地域がよくきたわけでございます。議員の皆さんも山古志にも行ったと思います。小地谷にも行ったと思えますけれども、あの山古志の山が動くということ。山が動いてダムができてしまうというような事象も見てきたわけでございます。

ある人に聞きましたら「まだ下水道が完全に直っていない」ということございまして大変かなということと、あれを防災対策でどうやって対応するのかということも難しいことであろうと思えます。

私自身でもそうでございますけれども、今回の地震においていろいろ考えてみたらまだうちの中の建具で金具のついたのもあまりないわけでございます。自分の身の回りすらできていないということでございますけれども、それじゃ下條村どうしておったんだということでございますけれども、これは私も調べてみたら、相当な大規模の訓練をやって

おります。第1回の大規模というと、平成7年9月1日、これは県の防災訓練を下條村やってみるかということで、当時の池田副知事が提案していただきまして、「どえらい金がかかっちゃ困るがやってくれ」と言ったら「金は1銭もいらん」ということでやりました。あの時分は県にも金がありまして、椀飯振る舞いやったわけでございますけれども、県警それから自衛隊、それから中電、NTT、それからありとあらゆるものが来て、大規模な訓練しました。ヘリコプターも2台来て、飛び回ったわけでございます。下條村もほとんどの村民の皆さんが出てくれたのかなということで、大勢おりましたけれども、あれが村民がどのくらいの比率だかわかりませんが、大々的なものをやりました。

その時に感じたことは、自衛隊、これは前の日に来たわけでございますけれども、「あれだけきて泊まる場所もない」と言ったら「我々はどこでも寝る」と、「どこでも泊まる。それでどこでも食事を作ってどこでもやる」ということでございまして、あの被災地、今回の被災地、自衛隊が本当に役に立ったなということはあの状況から見てもわかります。

もう1つの思い出は、あの副知事に塩っ辛いむすびを食わさせまして、あれも相当辛かったと思いますけれども、2～3年「下條ちょっと塩分減らした方がいいぞ」なんて日赤奉仕団があれが流れ作業でやって、飯は自衛隊が炊いてくれたんだな。やってこっちできあがったのをまた次の人が持って行って、それにまた塩ふってさあ食えということでございまして、大変な思い出であります。

そしてまたあの当時、イワシのこういう缶がある、そして乾パン、あの普通の乾パンでなしにあの乾パンというのは非常にずっしり重いわけございまして、なぜそんなことを覚えておるかということ、それがまだ役場にあります。そして適当に食べております。今の時代に賞味期限がどうだどうだなんて、私たちの生きる時分は缶詰というのはふくれてこにゃ大丈夫だということでございましてけれども、私どもの年中行事として12月27日に夜警が終わってほしい9時半ごろから「ご苦労さんだった、1年は」ということで、一杯食堂で飲みます。その時の魚は今でも乾パンとその今の平成7年だで賞味期限そろそろ17～8年になるんですけれども、絶対に大丈夫だということでございましてけれども、あの当時よりまだ製法技術がいいわけございまして。それで缶詰賞味期限ないのか、缶詰だけはぜひそれも体験でございます。

それからあの乾パン、あれは大したものでも虫が食うわけでもないし、きちっとしたずっしり重い乾パン、そんなものも記録にあります。

2番目に大きなものは19年の3月3日にやりました。広域と消防、消防も同じでございますけれども、それと県のヘリコプター航空隊でやりました。その辺飛び回ったりいろいろ対応したわけでございます。

そして3番目が9月9日、19年これもやりました。これ医師会を中心としてやったわけございまして、災害時の大災害の時に、その時にトリアージというのを覚えましたが、ドクターが診てそしてこれもう駄目なやつは黒だとか、早く行かなければならぬのが赤、黄、何とか色に分けてずっと広場に並べておいて、それから悪い方から搬入するというような方式もやりました。一番悪いのはヘリコプターで持って行くわけございすけれども、そんなものもやったし、AEDの訓練なんかも実際にやっただきました。その他いろいろやっております。

ところがここが問題でございまして、受ける方はほうほうほうと見ておるだけでございす。こちらあまり少なくて困るんで、親田は何名出してくれということでやるんですけれども、本人が本当に必要性を感じて腹が減ったところへ飯を食うくらいなこの気持ちで見ておってくればいいんですけれども、何かショーを見ておるような、私どももそうございましてけれども、そういうことございすけれども、今度は大震災ということでございまして、現実目撃にしたりしたわけございす。

特にテレビなんかを放映されるわけございすけれども、今言われたようにまだ行方不明者が8千人もおるといふこと。避難者が10万人近く、9万7～8千人おるといふすけれども、そんな状態の中で今朝テレビでやっておったので南三陸町というのは仮設住宅ができたんですけれども、水がきていないと。洗濯物は川で洗濯する。そんなことを平気でやっておる。そして永田町では、テレビに出る時だけ政治家はジャンパー着て現地へとにかく飛ばして行って、あの気持ちにならなければいけないなということも感じたわけございす。

それから今後の対応でございすけれども、どういうふうに対応していくかということでございすけれども、基本的には今あるものを再確認してみようということやっております。今何があるかという、第1回緊急地震速報というのがきたときにはやるように

なっております。音声告知とアラームとあって、これ同報無線と音声告知でやります。

それから2番目として、職員の災害対策本部の緊急配備計画に基づき、第1号配備として震度4では班長以上の職員が集合。第2号配備として、震度5弱以上は全職員が集合することになっておいて、本部に詰めるということになっております。

3番は、対策本部の立ち上げと応急対策計画により、情報の収集や伝達等を行うとともに、本部の指示により、各部各班が対応するというところでございます。

ここで山古志に行って一番私ども勉強になったのは、情報が途絶えて孤立するというところでございます。携帯電話は全部駄目、それからどっか電話のあるところまで行くのにもう道がずたずたで危なくて行けないということで、相当情報孤立したわけでございまして、そのことを踏まえて下條村では衛星携帯、これを7個くらい入れて各詰所、それから行政の関係には置いてあります。

この前、笑いの話でございすけれども、福島は泉崎村、これ被害を受けたなということでやったら全然通じないということで、「こんなものは衛星携帯ですぐ通じるわ」ということでやったら残念ながら泉崎に衛星携帯がなかったということでございまして、こっちにいくらあっても受ける方がないと駄目だなということもわかりました。あれちょっと高いし、維持費もかかるでまたひとつ。この前言っておいたんだけど、大いにまたやってくれんと困るなと思っております。

それから今後の体制でございすけれども、職員の招集訓練や浄水器、今度新たに浄水器を入れました。あれはライフラインの確保としては自然河川だとかプールの水というのはある程度確保されるわけでございす。自然河川が枯れてしまうということはないわけございまして、その水を浄水する機械を2台買いました。これで相当いいと思いきけれども、給水器の取り扱い訓練等により現実的な対応ができるよう、また想定外の事象が起きた場合にもフレキシブルに対応できるよう職員の資質を高めるようにやっております。

なお、9月1日は防災の日でございすけれども、9月3日に伊藤和明さんという防災担当、NHKでやっておった人でございすけれども、ちょうどその人がお願いできるようになりました。それぞれの講師でこの前の新潟の小地谷市からきて講演もしたわけでございすけれども、今回は夜間相当大勢の人に出てもらってやるということにしております。

す。

食料の備蓄については、 α 米それから今既に消防の報知器も全戸につけました。

備蓄につきましては、備蓄倉庫も2つ2セット去年買いました。それからあとは役場だとかセンターだとかそれからいきいきランドに備蓄しておるということで、新たな備蓄は作るようにはしてありません。

それからまだ対応としては、給水タンクなんかもやりました。給水タンクも買っておるわけでございますし、5001のを3個。

それから問題は、大災害起きたときにいかにネットワークを作るかということでございまして、今広域14市町村の中で綿密なネットワーク。それからそのネットワークの中でまた例えばうちと刈谷市というような問題があるわけございまして、そうしたネットワークをすべてにとらえると相当大規模なものになります。大規模災害というのはそれしか救う道がないということと、どうしてもいえることは自分の身は自分で守る以外にはないということ。どうしても守れんときは行政が当然平行して頑張るわけでございますけれども、やるということでそういう意識改革をしなければいけないということ。

それからこの前、南相馬の市長さんが来ました。「非常にそのいい対応してくれて感謝しておる」ということございましてけれども、その人がいろいろな状況を話していった中で、「総体的に今度の震災で何を感じたかといったら、人間の力というのはもうこんなものは鼻くそみたいなものだ。自然には絶対勝てないと。勝てるには人間の真のきずなである」ということをぽつりと言っておられました。「なるほどな」ということございまして感じました。

そこでここに1つなるほどなということもございまして。ここに堤防、三陸海岸の堤防ものすごい大きなものを作って助かった波消し堰堤もありますけれども、その中で釜石、釜石の堰堤を作りました。なんと65mの下にでかいコンクリートブロックを埋めて、その上から海水から立ち上げてきて、これなら大丈夫だという15mの堰堤を2kmに渡って作った。要するに平成の万里の長城ということですのですごいなということで、相当人が見学に行ったそうございましてけれども、これが一発で全部ではないんですけれども、ほとんど陰をなくしたということございまして。

700万立方メートルの固体を65mの下に埋めたということございまして。そのブロックので

っかいのを埋めて、それを基本にして積み上げたということでございまして、まさに公費も1,200億円かけた。それも一発でがたがたになってしまったということでございまして、自然の猛威の前にはなかなか人の力というのは及ばないのかなということと、そうした状況の中で南相馬の市長がきずな、要するに真のネットワークしかないということを感じたということをお話してくれました。言葉は少なかつたんですけども、なるほどなということでご感銘いたしました。

下條村は、居住ゾーンが非常に狭いわけでございまして、そしてまた危険箇所というのはほとんどないわけでございますけれども、私どもが一番危険だなと、もしということは牛ヶ爪の上流を非常に危険視しておりました。昔大災害があつて死者も幾人も出たわけでございますけれども、あのところに国・県ででかい堰堤というか巨大な堰堤を作っていました。こういう堰堤でなくて柱をぼんぼんぼんぼん立てた堰堤も作っていただいで、今のところこれからも大いに見直しをしますけれども、大丈夫かなというふうにご考えております。

しかし、災害というのはどういう格好でくるかわからないし、今防災マップというのは作っておりますけれども、ほとんどの皆さんはあれを見ておるか見ておらないかということ。それで避難場所、これも問題でございますけれども、私自身もうちの辺はどこへ避難するんだつたかななんてということでございます。例えばそいじゃ下條学校のグラウンドへ来ればいいじゃないかというんだけれども、橋がみんな落ちたときはどうするんだというような現実の問題があるわけでございますので、こんなものも先へ先へ急ぐんじゃなしに、今まであつたのをもう一度現場を見て咀嚼し直して、自分のものとするということにおいて相当防災意識、防災レベルは変わってくると思ひますので、そんなことを感じたままご報告申し上げて答弁といたします。

○議長（宮嶋 清伸） 7番、村松積君、再質問はありますか。

村松積君。

○7番（村松 積） ただいま、ご答弁いただいたわけでございますけれども、その中でも避難場所の公共施設の耐震化状況だとか、もう完了しておると思ひますけれども、ちょっとその点を追加でお願いしたいと思ひますが。

○議長（宮嶋 清伸） 伊藤村長。

○村長（伊藤 喜平） 耐震が一番早くやったと思います。昭和56年以前の建物については、いち早く公共のものについてはやっております。

郡下に先駆けて小学校は15年・16年度で3,962万円かけてやっております。役場と村民センターは平成16年度に1,622万円。それから村民体育館というのがあります。あれはあっていいか悪いかということでございますけれども、あの小学校のグラウンドの一番奥にあるわけでございますけれども、あれは整理をするか金をかけるかということで今迷っておりますけれども、これと公民関係は全部済んでおるということでございますのでご理解いただきたいと思います。

○議長（宮嶋 清伸） 7番、村松積君、再質問ありますか。

○7番（村松 積） ただいま伊藤村長から、現在村においての状況とか今後の対応についてお考えをつぶさにお聞きをいたしたわけでございます、大変心強く思っておるところでございます。

瞳輝く下條の第1章の村の将来像の中にこういうことが書いてあるわけでございます、いきいきと輝きお互いの心が触れ合い助け合うことによって住みよい下條村となるようとうたわれております。

住民の皆さんが将来において安心安全で生活ができるようにとよく言われますが、よく「備えあれば憂いなし」ということもありますけれども、こうして我々が言うのは非常に簡単ではございますけれども、対応するという事は非常に大変だと思いますが、いずれにしても万全な体制をお願いしたいというふうに思っておるわけでございます。

次に、いざというときにどう身を守ればいいのかというようなことでございますけれども、今回の震災を踏まえまして、改めて災害への備えが重要であるということを再認識をいたしたわけでございますが、現在村においても地域防災計画が作成されておるかと思いますが、その中にいろいろな対応等が記載されておるのではないかと思います、今回の大震災をはじめ今後想定される東海沖地震等の災害に備えて、行政にすべてを頼ることは非常に難しいわけでございますけれども、それを補うのは一人一人の励まし合いとただいま村長の方からありました「きずな」ということでございますが、私も社会のきずなではないかと思っておるわけでございます。

集落の中で住民の皆さんの安全確認ができることが被災者を減らす第一であり、集落ご

との防災体制が重要であるというふうに思うわけですが、全村をあげて再度防災対策の見直しを行っていただき、また新たにただいま出ておりましたけれど、原子力発電の関係で見直し等が非常に叫ばれておるわけですが、当下條村も静岡県の浜岡原発から半径で100km圏以内というようにいわれておりますので、村としても放射能についての対応マニュアル等の作成を行いまして、根本的な地域防災計画の見直しを行う計画があるかどうか伊藤村長のお考えをお願いしたいと思います。

○議長（宮嶋 清伸） 伊藤村長。

○村長（伊藤 喜平） 先ほど申しましたように、まず第一にもう一度あるものを見直して再確認しましょうと、これが第一であろうと思います。それから今の原子力、これも大変でございますけれども、村で一応カウンター買ってみるかということでございますけれども、どうも1年半くらいかかるそうでございます、あの今売れて売れておるところでございます。

それともう少し段階でございますけれども、串原議員の方からもこれについていくらか残しておいてやらんといかんということと、それからもう1つ金田議員の方からもこれに関連したものが出ておるわけでございますので、そこでまたひとつお聞き取りいただきたいと思えます。